

地域防災計画策定を支援する各種評価等の全体像

UPZ範囲設定の 参考のための評価

【米国で開発されたレベル3PSA
コード*であるMACCS2を活用し
評価を実施】

・評価内容

外部・内部被ばくの合計での
実効線量が7日間で100mSv
(IAEAにおいて避難が必要と
すべき線量基準に準拠)に達
する確率が97%に達する距離
を16方位別に評価。

・実施主体

原子力規制庁及びJNES

防護措置計画の 参考のための評価

【日本原子力研究開発機構
で開発されたレベル3PSA
コード*であるOSCAARを活用し
評価を実施】

・評価内容

避難・屋内退避・安定ヨウ素
剤服用等の各種防護措置に
よる、サイトからの距離に応じ
た被ばく低減効果等を評価。

・実施主体

JAEA

※ 原子力規制委員会・原子力災害
事前対策検討チームにて説明

避難計画作成の 参考のための評価

【米国等において避難時間推計
(ETE: Evacuation Time Estimate)
として解析が行われている
ものであり、各立地地域毎に
評価を実施】

・評価内容

各地域の人口分布や道路状
況等を基に、避難時間等を評
価。

・実施主体

道府県

※ 道府県向け交付金(内閣府)を活用

その他調査

地域防災計画の策定のため道
府県自ら行うその他の解析等
についても、道府県向け交付
金(内閣府)にて財政支援可。

※レベル3PSAコードについて:

原子力施設を対象とした確率論的安全評価(Probabilistic Safety Assessment)のうち、
レベル1PSAは炉心損傷の発生頻度を評価し、レベル2PSAは放射性物質の放出量及び頻度等を評価する。
レベル3PSAは、レベル1PSAやレベル2PSAにより得られる炉心損傷及び格納容器機能喪失時期や放射性物質の
放出の挙動並びに緊急防護措置実施による被ばく低減効果等を踏まえて、一般公衆に対する影響を評価する
ものであり、そのために用いる計算コードをレベル3PSAコードという。